

三四〇〇番

信濃なる

千曲の川の

小石も

君し踏みてば

玉と拾はむ

三四〇一番

中麻奈に

浮き居る舟の

漕ぎ出なば

逢ふこと

難し 今日にしあらずは

三四〇二番

日の暮れに 碓氷の山を

越ゆる日は

背なのが

袖も さやに振らしつ

三四〇三番

我が恋は まさかもかなし

草枕

多胡の入野

の 奥もかなしも